

令和 3 年 6 月 27 日現在

機関番号：34435

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2020

課題番号：15K03998

研究課題名（和文）高齢期の居住移動と定住要件の研究 - 沖縄離島は安住の地となり得るか -

研究課題名（英文）Relocation in Later Life and Conditions for Settlement: Are the Remote Islands of Okinawa a Stable Place to Live?

研究代表者

時本 ゆかり (tokimoto, yukari)

大阪人間科学大学・人間科学部・准教授

研究者番号：50581055

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：高齢期に離島で定住するためには、安定した介護が受けられることに課題があった。特に、小規模離島では要介護者を支える在宅系の介護支援体制の整備が急務である。地域のリーダーとともにその地域（島）の特性に応じた支えるしくみを開発することが必要であり、さらにそこには、移住者の役割があることが明らかになった。産業においてはU・Iターン者を引き込むための観光はもとより、始まったばかりの地域ブランドの確立に向けた産地育成、環境と調和した安定した農業生産等、農業振興に期待される。また、自然・伝統・文化の継承は他出家族と島内の高齢者をつなぐものとして重要であり、継承し続けることの重要性が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

沖縄離島の介護施策は高齢者の在宅生活を十分に支えるには至らず、高齢期の定住にはつながっていないことの知見を得た。本研究により、本来は公平な制度であるはずの介護保険制度の課題、また離島における高齢期をとりまく幅広い世代の意識が浮き彫りになったことは、地域特性を踏まえた介護施策を検討する手がかりとなる。さらに、今後の課題として結婚を機に島に来た者の意識について、また島出身の若者の帰郷意識をいかに維持・醸成するかについて示唆を得たことの社会的意義は大きい。

研究成果の概要（英文）：For those settling on remote islands in their old age, the availability of stable nursing care is challenging. Especially on small and remote islands, there is an urgent requirement to develop an at-home care support system to assist those in need. It is essential to develop a support system that is tailored to the characteristics of the area (island) in collaboration with local leaders. Migrants were also found to play an integral role in this process. In the industry, it is not only expected that tourism will attract return migrants and migrants from urban areas; there are also hopes that agricultural development will foster the establishment of fledgling local brands and stable agricultural production in harmony with the environment. In addition, the inheritance of nature, tradition, and culture is a crucial connection between the elderly residents and their family members who have left the island, which demonstrates the importance of this continued inheritance.

研究分野：社会福祉 高齢者福祉 介護福祉

キーワード：高齢者 介護 離島 介護保険 沖縄 介護福祉ニーズ 介護サービス 移住者

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、沖縄離島社会が持続するために高齢者福祉および介護福祉に着目して地域移動を生み出す要件を把握し、移住者を含めた多様な背景をもつ高齢者が地域で生活を継続できるための要件を検討した。これまで、高齢期の居住地移動の研究は、農村と都市部間の移住が中心であり特に大都市圏に限られた研究が多く、離島地域において高齢者福祉から検討したものはみあたらない。本研究対象地域である宮古諸島および八重山諸島は進学・就職を契機とした人口流出が著しく、一方で近年は沖縄ブーム、離島ブームにより都市部からのさまざまな世代の移住受け入れが人口を下支えしている地域である。一般的には離島は高齢化率が高くなる傾向にあるが、沖縄離島では、島外から移住する若者が多く、高齢化率のみではその実態を把握できない。また、離島では要介護度が高い傾向にあること、医療・介護ニーズを求めて地域移動が伴うこと、沖縄離島出身者の多くはUターンを切望していることなど、沖縄離島社会では、都市部や農村部また、他地域の離島部を異にして独自の問題が生じている。

そこで、沖縄離島社会が抱える高齢者福祉・介護福祉的課題を整理し、実情を把握することは重要であるととらえた。

## 2. 研究の目的

離島の人々が定住するには、地域が安心であることが重要である。沖縄離島は自然に囲まれ、観光のリピーターから定住への流れが認められる特徴的な地域である。一方で移住後や高齢期にはどのような暮らしが待っているのだろうか。本研究の目的は、沖縄離島(宮古諸島、八重山諸島)の住民はどのような福祉・介護的問題に直面しているのか。特にUターン、リターン者を含む地域住民の生活基盤や基礎的条件に加えて、介護提供者側の課題、移住者を含めた住民が定住するための要因を検討した。

具体的には以下の研究を進めた。

- (1) 宮古諸島、八重山諸島の離島における介護の現状や高齢生活者の課題についての検討
- (2) 地域コミュニティと高齢者の生活についての検討
- (3) 若者の帰郷意識の検討
- (4) 島で最期まで暮らし続けることと住民の意識と高齢・介護福祉の課題の検討

## 3. 研究の方法

### (1) 宮古諸島、八重山諸島の離島における介護の現状や高齢生活者の課題についての検討

八重山諸島の小離島を対象に民生委員、公民館元役員、介護事業運営者、介護支援専門員、社会福祉協議会地域担当者を対象に、またUターン移住した住民に個別にインタビューによる半構造化面接を行った。また、農業・伝統織物の関係者に聞き取り調査を行った。

八重山諸島の大規模離島の県外から移住した介護支援専門員5名および地域包括支援センター職員3名を対象に専門職の定住の構造および介護福祉の課題について把握するために、個別インタビューによる半構造化面接を行った。

八重山諸島の基幹島と近接し、島内に入所施設がない小離島を対象に住民へのインタビューによる半構造化面接を行った。分析方法はいずれもインタビューデータをもとに質的研究KJ法にて構造化を図った。

### (2) 地域コミュニティと高齢者の生活についての検討

地域の共有する課題を解決するための組織である地域自治組織の石垣市の13地域の長(公民館長)への質問紙調査および聞き取り調査を行った。そこで地域の将来の考え方や抱える課題について検討した。

### (3) 若者の帰郷意識の検討

地域経済や、伝統行事・文化を支えるために重要な世代である青年期に着目し、行動や郷土に対する愛着、伝統的な規範がどのような要因によって規定されているのかを調べるために、石垣市内にある3つの公立高等学校の生徒674名を対象にした質問紙調査を実施し分析した。

### (4) 島で最期まで暮らし続けることと住民の意識と高齢・介護福祉の課題の検討

住民たちは島で高齢期を迎えることをどのように捉えているのかを検討するために、高齢期の重要なライフイベントである介護期に焦点化し、(1)から(3)で得られた内容を元にして、住民を対象として質問紙調査を実施した。395名を分析対象とした。高齢者が島で住み続けるための介護福祉ニーズと属性との関係について分散分析を行い検討した。

## 4. 研究成果

### (1) 宮古諸島、八重山諸島の離島における介護の現状や高齢生活者の課題についての検討

地域の開拓等の歴史が残した人口構造が将来の安定した介護サービス提供を困難にさせるこ

とが危惧され、各島の実情に応じた柔軟なサービス整備が必要になる。在宅介護サービスは安定した収入が見込めないことから人材確保が困難であり、小規模コミュニティであるがゆえの人間関係から訪問型のサービスは敬遠されることがある等、利用控えが起きている。要介護状態が重度化すると島を離れ、入所施設のある島外に移動することが常態化している。

高齢期・壮年期のIターン者は村落部でもみられるが、市街地に住まうものが多い。村落部では借家等の住居の提供を受けられるかが重要な点であり、また、地域の祭事・行事参加などの慣わしに参加・協力するなどの地域とのつながりへの努力があった。独居、虚弱、認知症の高齢者は、強い住民相互のネットワークに支えられていた。地域に受け入れられ、医療や在宅介護サービスが島内で提供されれば、島での生活が可能になることが分かった。

農業IターンUターンと定住について、地域農業の存続と後継者について検討した結果、先島諸島では農業の担い手の高齢化が進んでいるが、資金面を中心とした行政の支援や新規就農を支える研修システムや助言の輪が形成されており、後継者が一定数確保されている。Uターン者は家族の影響を受けて当初からいずれ帰ってきて農業をするという意識を持っている。Iターン者は農業が目的という以上に、この地域の自然や文化、人間関係の魅力によってこの地域での定住を求めている。

宮古上布、八重山上布、ミンサー、また、沖縄の他地域の織物について、伝統織物の継承には、技術の高さから持続的な努力、忍耐力、体力が必要である。伝統技術の継承、織物産業の振興に更なる試みがなされ、技術継承者の高齢化や人材不足、材料となる苧麻糸の確保など産業化には共通課題があった。しかし、島によっては人々の暮らしと織物が根づいており、この島では、女性の高齢者がその伝承の役割を担っているなど、生活に根付くための織物には高齢女性が重要な役割を担っていた。

宮古島、石垣島の在宅介護サービスを支える介護支援専門員の半数以上がIターン移住者であることが明らかになり、Iターン者が地域の介護サービスを支える重要な役割を担っていることが分かった。また、この地域に自然を基本とした愛着があること、仕事の安定、一定の賃金が確保されることが定住する要件になっているものと考えられた。

介護サービスの発展も人材不足がゆえに困難な状況であること、基幹島に住まう子世代が週末に帰島して介護をするも、重度化すると離職せざるを得ない。身体的介護が必要な状態では、島内に家族が居ないと、生活は継続できない現状が明らかになった。

## (2) 地域コミュニティと高齢者の生活についての検討

この地域の公民館は、自治組織と市が委託した社会教育事業とを兼ね備えた活動をしており、主には神事・祭事を中心とした伝統行事を継承する組織となっている。調査結果からは次世代に伝えたい地域の魅力として暖かい人間関係をあげる地域が多く、地域の重要な課題として、地域住民の交流、高齢者支援をあげる地域が多かった。この地域は多くの地域で過疎化の荒波が一気に押し寄せて、故郷を離れる一方で、市街地などで新たな人口の流入が顕著であり、その両面の対処に苦慮していた。

## (3) 若者の帰郷意識の検討

高校生の9割近くは沖縄本島や県外に進学・就職するため島を離れる。卒業を機に一度は島を離れるが、いずれは島に帰って来たいという意識が強い。特に島内出生者は島外出生者よりも帰郷意識が高いことが明らかになった。家業の農業の影響を受けて当初からいずれ帰って来たい希望をもっているも、低収入であることから断念する実態があった。

## (4) 島で最期まで暮らし続けることと住民の意識と高齢・介護福祉の課題の検討

20歳代から90歳代のどの年代においても介護サービスの安定を重要と捉えていた。特に経済困窮層では切望する傾向にあった。また、後期高齢者では家族・親族との物理的距離の近さが他年代よりも重要と思っている。伝統・文化の継承は集落の維持、繁栄、さらには高齢期の役割に欠かせないものであった。Iターン者は家計の安定や介護生活などの生活の安寧を求めていることが明らかになった(表1)。

## まとめ

高齢期に島で定住するためには、安定した介護が受けられることに課題があった。

特に小規模離島においては要介護者の最期の砦となる在宅系の介護支援体制が早急に望まれるが、地域のリーダーとともにその地域(島)の特性に応じた支えるしくみを開発することが課題となる。産業においてはU・Iターン者を引き込むための観光はもとより、始まったばかりの地域ブランドの確立に向けた産地育成、環境と調和した農業生産等、農業振興に期待する。自然、伝統・文化の継承は他出家族と島内の高齢者をつなぐものとして重要であり、継承し続けることの重要性が明らかになった。

また、本研究から今後の課題も見いだせた。島の若者の帰郷意識をいかに維持・醸成するか。結婚を機に配偶者の住む島に来た者は、他の者とは異なった捉え方をしていること。さらに、地域協同で運営する小売店が高齢者をはじめ住民のつながる重要な資源となる可能性がうかがえたことは今後の継続研究としたい。

表 1. 高齢者が地域（島）で住み続けるための介護福祉ニーズと属性との関係

島	n (%)	介護生活を支える制度			伝統・文化の継承			生活の安寧			島内にある家族・親族の存在			世話をしてくれる近所・親戚		
		平均	SD	p	平均	SD	p	平均	SD	p	平均	SD	p	平均	SD	p
西表島	147 (45.0)	0.087	0.859	ns.	-0.136	0.932	ns.	0.028	0.946	ns.	-0.152	0.990	ns.	-0.009	0.725	ns.
黒島	17 (5.2)	0.035	0.830		0.101	0.634		-0.015	0.948		0.262	0.833		-0.031	0.606	
小浜島	38 (11.6)	-0.062	1.001		0.286	0.692		-0.165	0.879		0.194	0.797		-0.010	0.678	
竹富島	8 (2.4)	0.166	0.592		0.251	0.669		0.205	0.435		-0.036	0.625		-0.187	0.456	
波照間島	30 (9.2)	-0.146	0.771		-0.032	0.889		0.062	0.881		0.223	0.753		-0.104	0.585	
鳩間島	5 (1.5)	-0.376	0.774		0.860	0.394		0.460	0.305		-0.017	0.914		-0.352	0.603	
多良間島	82 (25.1)	-0.072	1.206	ns.	0.032	0.959	0.044	-0.047	1.030	ns.	0.048	0.773	ns.	0.121	0.836	ns.
年齢																
20代	17 (5.3)	0.067	0.731		-0.015	1.025		0.027	0.640		0.248	0.744		0.638	0.717	
30代	58 (18.0)	-0.083	0.825		-0.220	1.004		0.147	0.732		0.278	0.618		0.078	0.616	
40代	76 (23.5)	-0.059	1.049		-0.102	0.933		0.182	0.805		0.081	0.827		-0.038	0.643	
50代	64 (19.8)	0.128	0.905		0.061	0.860		-0.223	1.074		-0.029	0.852		-0.097	0.663	
60代	77 (23.8)	-0.053	1.158		0.233	0.721		-0.120	1.107		-0.278	0.991		-0.007	0.844	
70代	22 (6.8)	0.261	0.382		0.060	0.606		0.094	0.726		-0.249	0.983		-0.395	0.677	
80代	6 (1.9)	-0.315	0.715		0.017	0.811		-0.111	0.988		0.884	0.362		-0.271	0.845	
90代	3 (0.9)	-0.165	0.387	ns.	1.033	0.223	0.041	0.419	0.449	ns.	0.190	0.528	0.001	0.438	0.051	0.001
性別																
男性	153 (46.4)	-0.102	1.078		0.094	0.879		-0.118	0.941		-0.069	0.937		0.005	0.731	
女性	177 (53.6)	0.088	0.828	ns.	-0.081	0.907	ns.	0.102	0.920	0.032	0.060	0.822	ns.	-0.005	0.721	ns.
居住経緯																
生まれでからずっと	23 (7.7)	-0.082	0.616		0.184	0.723		0.144	0.729		0.281	0.765		0.111	0.627	
Uターン	103 (34.4)	0.023	1.143		0.136	0.890		-0.263	1.109		0.062	0.760		-0.070	0.730	
Iターン	131 (43.8)	-0.051	0.896		-0.011	0.839		0.166	0.744		-0.103	0.940		0.045	0.664	
結婚	42 (14.0)	0.072	0.996	ns.	-0.344	1.203	0.027	-0.084	1.094	0.005	0.081	0.909	ns.	0.000	0.824	ns.
居住継続意思																
現在の住所地域に住み続けたい	206 (74.4)	0.071	0.817		0.106	0.841		0.020	0.899		-0.012	0.790		-0.011	0.633	
村内の他の地域に移りたい	9 (3.2)	0.166	0.662		0.212	0.965		-0.079	0.996		-0.481	1.329		0.101	0.587	
村外に移りたい	13 (4.7)	-0.240	1.844		-0.166	1.072		-0.243	1.277		0.143	0.735		0.146	0.639	
わからない	49 (17.7)	-0.255	1.132		-0.158	1.049		0.157	0.882		0.032	1.083		-0.033	1.084	
経済的暮らし向き																
家計にゆとりがあり全く心配なく暮らしている	54 (16.5)	-0.292	1.195		-0.081	0.852		-0.002	0.916		0.085	0.910		-0.001	0.661	
家計にあまりゆとりがないがそれほど心配なく暮らしている	167 (51.1)	0.103	0.801		0.070	0.842		0.002	0.922		-0.033	0.842		-0.022	0.664	
ある家計が苦しく、非常に心配である	76 (23.2)	-0.109	1.060		0.078	0.823		0.029	0.897		0.108	0.797		0.139	0.797	
	30 (9.2)	0.187	0.918	0.041	-0.451	1.302	0.047	-0.046	1.126	ns.	-0.233	1.188	ns.	-0.256	0.910	ns.

検定は一元配置分散分析による

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 時本ゆかり	4. 巻 第20号
2. 論文標題 沖縄の小規模離島において高齢者が島内で継続した暮らしを送るための介護福祉ニーズ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪人間科学大学紀要「Human Sciences」	6. 最初と最後の頁 23-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 時本ゆかり	4. 巻 第19号
2. 論文標題 離島における単身高齢者の暮らしを支えるための福祉基盤の検討 沖縄県先島地域のケアマネジャーの在宅生活継続支援からみえる課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪人間科学大学研究紀要「Human Sciences」	6. 最初と最後の頁 67-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 時本ゆかり	4. 巻 第16号
2. 論文標題 沖縄小規模離島の高齢期の暮らしと福祉ニーズ	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 大阪人間科学大学紀要「Human Sciences」	6. 最初と最後の頁 79-87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 時本ゆかり 大久保弘枝
2. 発表標題 離島のケアマネジャーによる高齢者の在宅生活を支える支援の実態と課題
3. 学会等名 日本介護福祉学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 時本ゆかり 村上雅彦
2. 発表標題 小規模離島地域の高齢期に地域で住み続けるための要件 地域に必要な条件と居住歴に注目して
3. 学会等名 日本看護福祉学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 時本ゆかり
2. 発表標題 沖縄県先島地域・小離島における高齢期の定住要件に関する研究 - 伝統を重んじるA島の住民等へのインタビュー調査から -
3. 学会等名 日本看護福祉学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 時本ゆかり
2. 発表標題 石垣・沖縄離島の高齢期を支える介護福祉の実態と構造の分析
3. 学会等名 日本看護福祉学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 時本ゆかり
2. 発表標題 沖縄離島に移住した介護支援専門員の定住の構造
3. 学会等名 日本看護福祉学会
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------